

第3章 成果と課題

1 裾野市立東小学校の取組

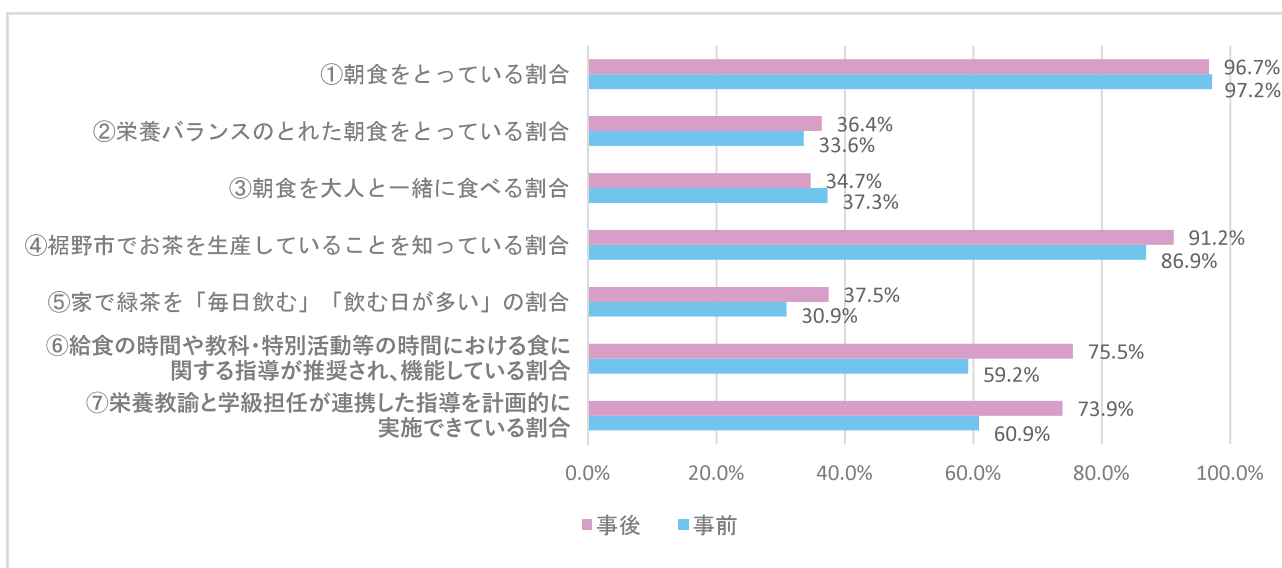
(1) 事前事後調査の結果

| | 評価指標 | 事前 | 事後 | 目標 | 達成状況 |
|---|---|-------|-------|------|------|
| ① | 朝食をとっている割合 | 97.2% | 96.7% | 100% | ▼ |
| ② | 栄養バランスのとれた朝食をとっている割合 | 33.6% | 36.4% | 40% | ○ |
| ③ | 朝食を大人と一緒に食べる割合 | 37.3% | 34.7% | 45% | ▼ |
| ④ | 裾野市でお茶を生産していることを知っている割合 | 86.9% | 91.2% | 95% | ○ |
| ⑤ | 家で緑茶を「毎日飲む」「飲む日が多い」の割合 | 30.9% | 37.5% | 35% | ◎ |
| ⑥ | 給食の時間や教科・特別活動等の時間における食に関する指導が推奨され、機能しているかで「できている」「おおむねできている」の割合 | 59.2% | 75.5% | - | ○ |
| ⑦ | 栄養教諭と学級担任が連携した指導を計画的に実施できているかで「できている」「おおむねできている」の割合 | 60.9% | 73.9% | - | ○ |

※事前調査は7月、事後調査は12月に実施。

※①～⑤は児童アンケート結果、⑥⑦は教職員アンケート結果

※達成状況 ◎：目標達成、○：事前と比較し増加、▼：事前と比較し減少



事前と事後の調査結果を比較すると、お茶に関する項目はすべて増加し、2年間の取組で定着しつつあることが伺える。特に、昨年度、総合的な学習の時間でお茶に取り組み、今年度家庭科でお茶の淹れ方を学習した5年生は、4年生時の事前調査結果と今年度の事後調査結果を比較すると、裾野市でお茶を生産していることを知っている割合は90.4%から100% (+9.6%) に、緑茶を毎日飲む・飲む日が多い割合は27.9%から50.5% (+22.6%) と大きく増加した。

他方で、朝食に関する項目については、朝食をとっている割合と朝食を大人と一緒に食べる割合は減少した。しかし、栄養バランスのとれた朝食をとっている割合は増

加し、特に食育啓発リーフレットを活用して、授業等で指導を行った5、6年生は、事前と事後の調査を比較すると、5年生は41.3%から53.9%（+12.6%）に、6年生は37.9%から47.2%（+9.3%）と他学年よりも大きく増加した。

今年度は文部科学省からの教職員向け調査を、食に関する指導の学校評価として活用した。コロナ禍で、計画通りに実施できない指導もあったが、指導に当たっては、栄養教諭と学級担任等との連携が図られた。

(2) 成果と課題

裾野市立東小学校では、昨年度と同様に、PTAの家庭教育学級と連携し取組を継続した。家庭教育学級を中心として、保護者と学校がつながることができ、さらには、栄養教諭と保護者がつながり、輪が広がりつつある。臨時休業期間にはHPによるレシピ紹介等の発信に力を入れ、保護者への意識付けを図った。また、今年度はPTA対象の食育講演会を開催し、会場である本校では、6年生に対しても講演を行った。受講した感想は、取組報告に記載の通りであるが、本事業の目的でもある「親も子も共に学ぶ」機会となり、その後の食生活の改善がみられつつある。

しかしながら、家庭教育学級や食育講演会に参加する保護者は意識の高い人が多く、家庭でも実践を行っているが、参加者以外への啓発が大きな課題である。今まで参加できなかった保護者とのつながりを強くするためには、学校を会場として実施するだけでなく、地域のコミュニティー祭りで児童がお茶をふるまう等地域と連携した発信やICTを活用した取組等様々な手法でアプローチしていくことが考えられ、その工夫と充実が求められる。また継続するためには、保護者で核となる人材が必要不可欠であり、日頃から情報交換をしてつながりを強くしておくことが今後の発展のためには必要である。

2 裾野市立富岡第一小学校の取組

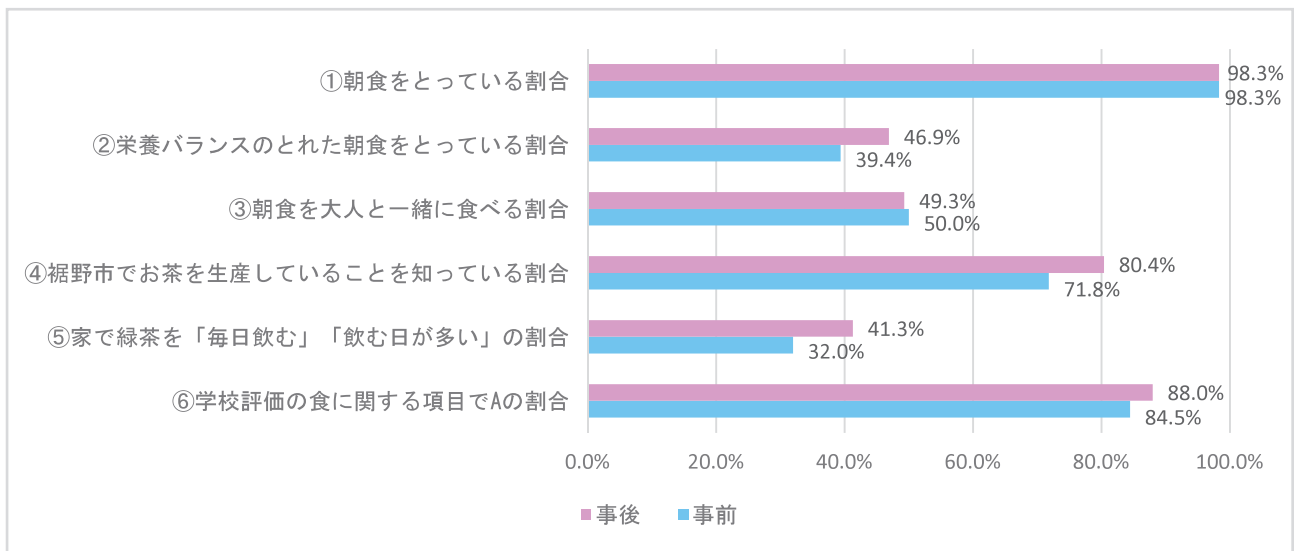
(1) 事前事後調査の結果

| | 評価指標 | 事前 | 事後 | 目標 | 達成状況 |
|---|-------------------------|-------|-------|-------|------|
| ① | 朝食をとっている割合 | 98.3% | 98.3% | 100% | ○ |
| ② | 栄養バランスのとれた朝食をとっている割合 | 39.4% | 46.9% | 50% | ○ |
| ③ | 朝食を大人と一緒に食べる割合 | 50.0% | 49.3% | 55% | ▼ |
| ④ | 裾野市でお茶を生産していることを知っている割合 | 71.8% | 80.4% | 85% | ○ |
| ⑤ | 家で緑茶を「毎日飲む」「飲む日が多い」の割合 | 32.0% | 41.3% | 45% | ○ |
| ⑥ | 学校評価の食に関する項目でAの割合 | 84.5% | 88.0% | 昨年度以上 | ◎ |

※事前調査は7月、事後調査は1月に実施。

※①～⑤は児童アンケート結果、⑥は教職員アンケート結果

※達成状況 ◎：目標達成、○：事前と比較し増加、▼：事前と比較し減少



事前と事後の調査結果を比較すると、ほとんどの項目で増加したが、朝食を大人と一緒に食べる割合はわずかに減少した。

お茶に関する項目については、東小学校と同様に、昨年度、総合的な学習の時間でお茶について学び、今年度、社会科見学でふじのくに茶の都ミュージアムに行き、製茶工程や様々な種類のお茶について等を実感を通して学んだ4年生は、3年生時の事前調査結果と今年度の事後調査結果を比較すると、「裾野市でお茶を生産していることを知っている」割合は77.8%から91.4%（+13.6%）と大きく増加した。また、「家で緑茶を毎日飲む・飲む日が多い」割合は58.6%と全学年のうち一番高かった。

朝食については、栄養バランスのとれた朝食をとっている割合が増加し、特に食育啓発リーフレットを活用して、授業等で指導を行った5、6年生は、事前と事後の調査を比較すると、5年生は34.4%から44.4%（+10.0%）に、6年生は44.3%から57.4%（+13.1%）と大きく増加した。

なお、学校評価の食に関する項目でAの割合の事前は、昨年度の評価である。

(2) 成果と課題

裾野市立富岡第一小学校では、地域学校協働本部「富っ子スクール」と連携をとり取組を継続した。米作りや野菜作りは、以前から地域の協力を得て行っていたが、昨年度から「お茶」を核とした取組を始めたところ、地域の産物として「お茶」の視点が加わり、新たな人材のつながりもでき、地域と学校の絆が深まった。3年生の総合的な学習、4年生の社会科、5年生家庭科と、「お茶」を核にして地域とつながり、体験活動等を取り入れながら教科横断的な学習が行える土台が整いつつある。今後もこの取組を継続し、学校文化として築き上げていくことで、学校、家庭、地域のつながりを深めていきたいと考える。

今年度、コロナ禍のため、予定していた親子お茶講座等が開催できなかった。しかし、茶葉の配布時に家庭での取組の様子を募集したところ、「子供が授業で学習したお茶の淹れ方でおいしいお茶を淹れてくれました」など多くの家庭から反応があった。

今後は、動画配信やアンケート調査、家庭での取組の共有、地域への情報発信などICTを活用し、学校からの一方向の発信だけでなく、多方向のやり取りができる新たな方法も工夫していきたい。

3 栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導、栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修

(1) 取組結果

市内3名の栄養教諭が連携して、栄養教諭研修会を実施した。栄養教諭研修会では、市内統一で取り組む食に関する指導実施計画等を作成し、給食の時間の指導内容や指導資料、学習指導案の検討、献立の共有等を行った。また、食に関する指導の全体計画についても研修を行い、栄養教諭が土台となるものを作成し、それをもとに各学校の推進委員会で検討した。

また、経験の浅い栄養教諭が家庭科のお茶の淹れ方の授業を行う前には、経験豊富な栄養教諭の授業を見学するなど、指導方法や内容を研修し、その後の自身の授業に活かすことができた。

| 評価指標 | 事前 | 事後 | 目標 | 達成状況 |
|------------------------------|----------|------|------|------|
| 栄養教諭の参画を明記した、食に関する指導の全体計画の作成 | 明記されていない | 明記した | 明記する | ◎ |
| 市内栄養教諭研修会の実施回数 | 1回 | 3回 | 2回以上 | ◎ |

(2) 成果と課題

両校とも、食育推進委員会を既存の指導部会に位置付け、食に関する指導の全体計画の見直し、作成を行った。新たに作成した全体計画②には、静岡茶に関する部分には色をつけ、栄養教諭が参画する授業等は☆印で示し、明確化した。指導部会のなかで話し合いが持たれたことで、各学年の指導計画の栄養教諭が参画する箇所にも★印をつけるなど新たな提案もあった。栄養教諭と担任等が話し合う機会も増え、教職員と栄養教諭間の信頼関係が生まれ、栄養教諭の積極性が増した。見直しを図った全体計画を全教職員で共通理解し、校長のリーダーシップのもと栄養教諭が中心的な役割を果たすことで、チーム学校として食育の推進に取り組んでいくことを期待したい。

また、今年度、栄養教諭研修会に市教育委員会担当指導主事の参加を依頼した。これにより、栄養教諭が兼務している市内の栄養教諭未配置校においては、支援体制があるものの、その活用について学校により温度差があり、市内各校で食育の推進にばらつきがあるという課題を共有することができた。今後、市教育委員会主導のもと、モデル校の取組を各学校に広げるための発信や市内で足並みをそろえた食育の推進のための仕組みづくりをし、統一した食に関する指導が実施できるようにしていきたい。